

＜天理高等学校・第3別館の「江原コレクション」(化石・貝類標本資料室)について＞

松村哲雄

「江原コレクション」は天理高校・第3別館の化石・貝類標本資料室にあります。このコレクションは二代真柱様が旧制大阪高等学校に御在学中、同校教授をされていた江原真伍博士の自然科学の講義を聴講されていたことがご縁で、ご遺族から譲り受けられた化石・貝類標本です。昭和51年(1976)に、自然科学に造詣の深い当時の校長・山中忠昭先生がこの標本を分類・整理し広く利用出来るよう、それぞれの専門家に命名していただき大切に保管するように指示されました。理科の小杉武文先生が中心になってこの作業を進められ、専門家によって命名された化石標本は、標本資料室で保管されています。「江原コレクション」は日本古生物学会会長の九州大学名誉教授の松本達郎先生も『地学雑誌 87,2 (1978)』で紹介されています。また、1992年3月20日付けの天理高校新聞にも掲載されているように、アンモナイトの研究に九州大学名誉教授の松本達郎先生と川村学園女子大学の二上政夫先生が来校されています。その後「江原コレクション」のアンモナイトが研究論文として国立科学博物館の小島郁生先生と川村学園女子大学の二上政夫先生によって発表されました。「江原コレクション」には化石標本のほかに貝類標本もあります。この現生貝類は黒田徳米先生の鑑定、波部博士の通覧をへて、1973年に天理高校教諭・岩下典弘先生が中心になって貝類標本目録が出版されています。この貝類標本は、かなり以前に採取されていたので、現在では絶滅している「生物の種(species)」もあると考えられる貴重な標本です。この貝類標本の調査のために、西宮貝類館の研究者が来校されたこともありました。



本校に貴重な化石標本

二代真柱様からいただいたもの

江原コレクションは二代真柱様が旧制大阪高等学校に御在学中同校教授を兼任されていた江原真伍博士の自然科学の講義を聴講されていたことがご縁になって、ご遺族から譲り受けられた化石標本です。この化石標本は昨年退職された小杉武文先生が中心になって整理され、第3別館に大切に保管されています。昨年3月に、九州大学名誉教授松本達郎先生と川村学園女子大学の二上政夫先生が江原コレクションのアンモナイトの研究

に来校され、このほど国立博物館の小島郁生先生と二上政夫先生による研究論文「A NEW MARSHELLITES SPECIES FROM THE LOWER CRETACEOUS MIYAKO GROUP IN NORTHEAST JAPAN」が発表されました。この研究論文のなかで、江原コレクションのアンモナイトが紹介されています。このアンモナイトは岩手県宮古地域の白亜紀の地層から産出したもの

に属するものです。白亜紀は二酸化炭素の量が現在の7倍ちかくあった時代で、地球の気候は温暖化し汎世界的に海進がおこりました。宮古地域にも「宮古海進」とよばれる時代があり、暖かい海域が広がりアンモナイトなどの中生代の古生物が繁栄していました。宮古地域のアンモナイトは地質時代とともに進化しており、アンモナイトの系統的な研究にはとても重要な地域です。研究論文の詳しい内容についてここではふれませんが、宮古地域のアンモナイトの系統的進化を解明するうえで江原コレクションのアンモナイトが重要な鍵をにぎっていたようです。白亜紀末は、アンモナイトや恐龍などの中生代型の古生物が劇的な絶滅をとげた時代です。現在、人類は自ら引き起こした地球の温暖化によって海面の上昇と気候帯分布の大きな変動という危機的状況におかれています。地球の歴史のなかで温暖な気候が長く続いた白亜紀の自然環境を可能な限り解析することは、地球の温暖化によって引き起こされるであろう自然現象を理解するうえで大変重要なことです。白亜紀の自然環境を解明するためには、アンモナイトなどの中生代の化石の研究が不可欠です。小島・二上両氏による研究論文は、江原コレクションの化石が白亜紀はじめとする地球の歴史を研究するうえで貴重なコレクションであることとをあらためて私たちに教えてくれるものでした。

で、MIYAKO GROUP

に属するものです。白亜紀は二酸化炭素の量が現在の7倍ちかくあった時代で、地球の気候は温暖化し汎世界的に海進がおこりました。宮古地域にも「宮古海進」とよばれる時代があり、暖かい海域が広がりアンモナイトなどの中生代の古生物が繁栄していました。宮古地域のアンモナイトは地質時代とともに進化しており、アンモナイトの系統的な研究にはとても重要な地域です。研究論文の詳しい内容についてここではふれませんが、宮古地域のアンモナイトの系統的進化を解明するうえで江原コレクションのアンモナイトが重要な鍵をにぎっていたようです。白亜紀末は、アンモナイトや恐龍などの中生代型の古生物が劇的な絶滅をとげた時代です。現在、人類は自ら引き起こした地球の温暖化によって海面の上昇と気候帯分布の大きな変動という危機的状況におかれています。地球の歴史のなかで温暖な気候が長く続いた白亜紀の自然環境を可能な限り解析することは、地球の温暖化によって引き起こされるであろう自然現象を理解するうえで大変重要なことです。白亜紀の自然環境を解明するためには、アンモナイトなどの中生代の化石の研究が不可欠です。小島・二上両氏による研究論文は、江原コレクションの化石が白亜紀はじめとする地球の歴史を研究するうえで貴重なコレクションであることとをあらためて私たちに教えてくれるものでした。

で、MIYAKO GROUP

(天理高校理科教諭 松村哲雄)